



教育学部同窓会報

2015



写真：山田正昭

No. 21

母校の発展を願って



同窓会長 田口 和男
昭和43年度生物科卒業

会員の皆様におかれましては、ご健勝にて、いろいろな場において、爽やかにご活躍のことと察し、心からお慶び申し上げます。日頃は「岐阜大学教育学部同窓会」の活動に対し、ご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この度、後藤忠喜会長の後を受け、会長という重責を担うこととなりました。現在まで、数多くの先輩諸氏が築き上げてこられた「私たちの岐阜大学教育学部同窓会」をどのように発展させていくのかと考えると、身の引き締まる思いです。どうかよろしく願いいたします。

同窓会事業について

同窓会の総務部会、組織部会、事業部会、広報部会の4部会は次のような活動を行い、同窓会活動の中核を担っている。

総務部会は新入生ガイダンス、理事会、評議委員会の開催、オープンキャンパス事業、同窓会入会式などまさしく同窓会活動の中核を担っている。組織部会は新しく導入した同窓生約2万名の会員システムの円滑な運用に尽力をしている。事業部会は31回目を迎える教育実践研究の募集、審査、論文集作成等、県の教育委員会の全面的な協力をいただき、岐阜県の小中学校の教育の発展に尽力をしている。広報部会は同窓会活動の内容や最新の教育学部の実情等の広報について尽力をしている。

今年度の役員については本誌6頁を参照していただきたい。



【同窓会入会式の様子】

私たちの学生時代と大きく変化した教育学部

9年前に非常勤講師として母校岐阜大学にお世話になったとき、私の学生時代との違いにカルチャーショックを受けたことを思い出す。

現在進路相談の仕事をして5年間行っているが、教育学部の将来像、組織の改編、大学の先生方の頻繁なる交代など目まぐるしいものがある。

大学にお世話になっても変化についていくことが難しい。そこで、同窓会で毎年発行する同窓会報において今の教育学部の実情を詳しくお知らせしていきたいと考えている。



【教育学部棟前の日本庭園】



【構内正門近くのコンビニ・広報プラザ】



【岐阜大学図書館本館リニューアル】

教員養成に特化した教育学部

岐阜大学教育学部のカリキュラムは、各種教員免許等の取得に必要な授業科目を中心に構成されている。本学の特徴は、全学年で実際に学校現場に向向いて学習するACT(Active Collaboration Teaching)プランという実習科目や、介護体験等の体験的な実践科目が組み込まれ、大学の授業と教育現場を結び、子どもと共に学習するプログラムを展開している。

このように教員養成に特化した学部であるにもかかわらず、入学時から教員を目指さない学生が多くいるのが実情である。教員採用試験の募集人数とも関係してくるが、大量退職時代を迎えたここ数年においても、教員就職率が60%台の後半であった。

しかし、ここ2年は71.4%、81.9%と高い数値を示している。これはまさしく教育学部の先生方の努力や教員採用に向けた指導の充実の結果であろう。教育学部の先生方に感謝したい。

岐阜県の教員を育ててほしい

今年度の4年生の岐阜県の出身者は51%である。最近の岐阜県出身者は多いときでも60%台の前半である。今こそ、岐阜大学教育学部に岐阜県の出身者が多く入学し、岐阜県の教員養成に力を入れていくことを願うのは私だけではないと考える。

例えば「地域枠での入学」という考え方がある。飛騨地区、東濃地区、可茂地区、中濃地区、西濃地区、岐阜地区という地域枠の入学制度が導入されたとしたら、2万人を超える同窓生を抱える「岐阜大学教育学部同窓会」も地区同窓会を導入し、その制度の力になっていくことが出来るのではないかと考える。今後、教育学部長等運営委員との話し合いを持っていきたい。



教育学部の新たな展開 教員養成の国際連携に向けた取り組み



教育学部長 池谷 尚剛

1. 教育学部・教育学研究科の現況

教育学部は、学校教員養成課程(230名)と特別支援学校教員養成課程(20名)の学生定員250名から構成され、全員が教育職員免許の取得を卒業要件としています。学校教員養成課程では小学校一種・中学校一種(学校教育講座は小・中いずれかと諸資格)、特別支援学校教員養成課程では小学校一種・特別支援学校一種を取得します。また、幼稚園、高等学校の教育職員免許、学校図書館司書教諭の取得や、公認スポーツ指導員、博物館学芸員、社会教育主事、認定心理士等の諸資格を取得することができます。平成27年3月卒業生252名の進路状況は、学校教育(教員)と教育・学習支援業が57.9%、大学院等の進学17.5%、官公庁7.5%、一般企業等17.1%となっています。教育学部卒業生の累計は17,457名になりました。

大学院教育学研究科は、教職実践開発専攻(教職大学院:20名)、心理発達支援専攻(11名)、総合教科教育専攻(38名)の学生定員69名で構成されています。教職実践開発専攻には、学校改善・授業開発・教育臨床実践・特別支援学校の4コースがあり、岐阜県教育委員会からの派遣教員が在籍し、教育専門職としての力量形成に努めています。また、心理発達支援専攻には、臨床心理学・学校心理学。特別支援教育の3コースがあり、臨床心理士・学校心理士の養成カリキュラムに対応しています。平成26年度から入学生を迎えた総合教科教育専攻には、言語社会コース(国語・英語・社会)、サイエンスコース(理科・数学・技術・家政)、芸術身体表現(保健体育・音楽・美術)、カリキュラム開発コースの4コースがあり、サテライト教室の設置やインターネットを活用して社会人学生のニーズに応えるように努めています。平成27年3月の修了生69名のうち、社会人学生22名は現職復帰(14名は県派遣教員)し、修了生47名の進路状況は、学校教育(教員)が70.2%、専門職の業種等が25.5%、公務員2.1%となっています。教育学研究科修了生の累計は、1187名になりました。

教育学部・教育学研究科の附属施設には、加納地区に附属小学校・附属中学校、柳戸地区に郷土博物館、特別

支援教育センター、心理教育相談室があり、教育実践に関する先導的・臨床的研究を行うと共に、地域社会に貢献するさまざまな相談・支援機能を発揮しています。なお、岐阜駅前サテライトに設置していた「こころの相談室」については、平成27年9月末をもって一時閉室といたしました。

2. 教員の資質向上に向けた取り組み

近年、学校教育に関する多様な社会的ニーズに応えるため、中央教育審議会から様々な答申が出されています。これらの答申が示す新たな教育課題は、少子化・高齢化・高度情報化・グローバル化する日本社会の変容に対して、児童生徒の生きる力として、自ら課題を発見し、主体的・協働的に探究し、成果等を表現していく力を育むため、アクティブラーニングを積極的に導入することです。特に、小学校において外国語(英語)を教科とすること、道徳を「特別な教科」とすること等が求められています。また、義務教育学校の創設にみられる小中一貫教育の制度化等は、今後の学習指導要領の改訂と併せて私たち教員養成学部(部)の教育課程や教員免許の取得のあり方にも影響してくることが予想されます。さらに多様化・複雑化・困難化する子供の状況に対応するため、「チームとしての学校」についても中央教育審議会の部会で検討が進んでいます。これから教育学部は、これらの諸課題に的確に対応することが求められていますので、同窓会の皆様のご支援・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

3. グローバルな視点・資質をもった教員の養成

さて、小学校における外国語活動の教科化等で求められるグローバルな視点・資質をもった教員をどのように養成していくのかに対して、教育学部では、諸外国の教員養成系の大学との交流を強化する取り組みを進め、これまでに次の二つの大学・学部と交流協定を締結しました。また、2015年12月には、中国の山西師範大学と交流協定を締結することにしています。こうした交流協定の締結により、今後、本学部の学生が交流大学の

プログラムに積極的に参加することを推進していきたいと考えています。

1)シーナカリンウィロート大学教育学部(タイ)と学術交流協定を調印しました。

教育学部とシーナカリンウィロート大学教育学部(Faculty of Education Srinakharinwirot University)は、2015年3月に教員養成に関する組織的・計画的な研究者の交流及び教育研究に関する情報交換等を推進するため、学術交流協定を締結しました。シーナカリンウィロート大学教育学部はタイの国立大学のなかで最も伝統のある教員養成系の学部です。調印式には、シーナカリンウィロート大学のプラパンシリ・スサオラット教育学部長、シリパン・シーワンヨン副学部長(研究・国際交流担当)、ルンティワー・イエムルン副学部長(学術担当)、本学部からは私をはじめ関係者が出席し、両教育学部長が互いの大学紹介のプレゼンを行った後、協定書に署名しました。また、調印式の前後には、本学の附属小・中学校への視察や、岐阜県教育委員会の協力による県内の複数の特別支援学校への視察も行われました。タイでは特別支援教育分野における教員養成が課題となっており、この協定締結により研究者・学生交流や教育プログラムの研究等を行い、タイの特別支援教育分野の教員養成に貢献することなどが期待されます。

2)カールスルーエ教育大学(ドイツ)と学術交流協定を調印しました。

教育学部とカールスルーエ教育大学(Karlsruhe University of Education)は、教員養成に関する組織的・計画的な研究者交流及び教育研究に関する情報交換等を推進するため、2015年10月に学術交流協定を締結しました。カールスルーエ教育大学はドイツ南西部バーデン・ヴュルテンベルク州にあり、学生数約3,500人の国立大学です。調印式には、カールスルーエ教育大学のクリスティアン・ベンツ副学長(研究及び後進育成担当)、ガブリエル・ヴァイガント教授、ムートフリード・ハートマン副学部長(自然・人文科学部「数学・体育担

当」)、本学からは私と、リエゾンの数学教育講座・河崎哲嗣准教授ら関係者が出席し、協定書に署名しました。調印式後には、本学部附属小・中学校等への視察も行われました。

両大学は、数学教育における共同研究の実績がありますが、本協定の締結により、教員養成に関する様々な教育課題への共同研究に取り組んでいくほか、テレビ会議等を利用した学生交流も活発に行い、グローバルな人材を育成することを目指します。



1)スサオラット学部長と池谷学部長



2)前列：(左から)ハートマン副学部長、ベンツ副学長、池谷学部長、ヴァイガント教授
後列：(左から)桑原氏、河崎准教授、松永副学部長、今井副学部長、佐藤教授、山田教授、田中准教授



平成 27 年度 岐阜大学教育学部同窓会役員

■ 会長

田口 和男 (S43 生物)

■ 副会長

田口 機子 (S40 体育)

浅野 佳正 (S46 数学)

吉田 政直 (S47 体育)

村瀬康一郎 (S53 数学)

■ 幹事 (◎部会長 ○副部会長)

総務部会 (担当副会長 村瀬康一郎)

◎ 村瀬康一郎 (S53 数学)

○ 後藤 信義 (S47 英語)

高木 敏彦 (S48 史学)

高橋 和子 (S49 美術)

菱川 洋介 (H16 数学)

組織部会 (担当副会長 浅野 佳正)

◎ 加藤 直樹 (S54 物理)

○ 高橋 雅裕 (S47 数学)

栗田 京 (S49 技術)

興戸 律子 (S54 数学)

事業部会 (担当副会長 吉田 政直)

◎ 黒田 隆吉 (S47 地学)

○ 山田 正昭 (S49 地学)

中島 康夫 (S50 史学)

加藤 弘和 (S50 数学)

矢嶋 英敏 (S51 英語)

子安喜久子 (S50 音楽)

広報部会 (担当副会長 田口 機子)

◎ 辻 泰秀 (S55 美術)

○ 高橋 忠明 (S48 技術)

杉山 真二 (S49 美術)

中村 敏朗 (S53 国語)

今井 亜湖 (H 8 技術)

監査

大塚 頼明 (S43 国語)

加藤 繁利 (S45 教育)

林 広司 (S48 化学)

評 議 員

大学系		
国文	藤根 隆	S63
	村山 邦博	S63
	吉永 康昭	H5
	富山 哲成	H8
史学	吉田 雪絵	H8
	西村 覚良	S39
	小川 敏雄	S40
	友田 靖雄	S40
地理	丹羽 柳三	S42
	高木 敏彦	S48
	小牧 壽	S45
	小林 直樹	S50
法経	豊島 博	S58
	堀江 秀樹	S58
	新井 恒雄	H6
	山本 讓	S48
哲学	井森 宗吉	S51
	村井 俊之	S56
	丸山 靖生	H3
	古川 徹	H19
数学	近藤 新八	S43
	柘植 卓伸	S52
	國定 幸敏	S53
	榎井奈津子	H 元
物理	奥村 直也	H5
	秋山 健	S36
	後藤 忠喜	S38
	宮脇 恭頭	S43
化学	中村 昌秀	S49
	熊崎 盛敏	S55
	奥田 好紀	S56
	若曾根 隆	S58
生物	堀部 昇	S61
	市原 隆行	H2
	竹腰 宣行	H3
	森 社	S51
	小柳 欣也	S51
	桐村 良昭	S53
	服部 公彦	S57
	酒井 茂	S62
	安藤 志郎	S43
	大野 伴和	S52
	井上 好章	S53
	渡辺 寛樹	H9
	細江 達三	H18

大学系		
地学	小栗 敬彦	S42
	山元 敏治	S45
	大平 柳一	S49
	水谷 憲司	S55
音楽	古田 靖志	S58
	棚橋 弘	S49
	羽土 聡	S59
	山田真紀子	S55
美術	杉本 公彦	S61
	三本木陽子	S51
	酒井 賢	S34
	長谷川 清	S37
体育	國枝 俊介	S44
	竹市 安彦	S49
	鬼頭 立城	S60
	中村 博巳	S39
技職	田口 機子	S40
	石子 裕朗	S45
	岡部好四郎	S52
	谷端 良夫	S55
家政	伏屋 敬介	S46
	高橋 忠明	S48
	清水 茂樹	S59
	吉田 竹虎	S63
英語	淀川 雅夫	H8
	杉山 恵子	S48
	清水 優子	S50
	南川 明子	H8
教育	佐野 陽子	H11
	大橋 絵美	H12
	中村 美幸	S40
	後藤 信義	S47
	高橋 克	S50
	深尾 雅人	S57
	山下 敦子	S60
	安田 和夫	S53
	柳川 禎章	S53
	神谷 弘子	S53
	松井みどり	S54
	江崎 麻美	S61

師範系		
師範 男子	西脇 成紀	S20
	田口 謙介	S22
	宮脇 修	S24
	安藤 俊夫	S25
師範 女子	高井 玉枝	S15
	大前 美子	S16
	田中 良泉	S17
	野中 和子	S20
青年 師範	小倉三千子	S23
	安藤 雅子	S24
	恩田 千束	S25
	安田 嗣朗	S21
	村上 實	S22
	石田 幸彦	S24
	今井 昌喜	S25
	服部 真六	S26
	乾 乃武子	S26

理 事

大学系		
国文	曾我部領史	H8
史学	西村 覺良	S39
地理	小牧 壽	S45
法経	大平 橘夫	S40
哲学	谷本 龍馬	S50
数学	堀部 邦雄	S36
物理	鈴木 雅史	S50
化学	柘植 良雄	S50
生物	小椋 郁夫	S49
地学	岩田 將之	S48
音楽	棚橋 弘	S49
美術	石原 通男	S32
体育	高橋 茂徳	S41
技職	伏屋 敬介	S46
家政	野村 令子	S34
英語	古澤 哲男	S42
教育	堀井 恕直	S34
師範系		
男師	宮脇 修	S24
	安藤 俊夫	S25
女師	安藤 雅子	S24
青師	石田 幸彦	S24

平成 27 年 12 月 1 日現在

平成 27 年度 岐阜大学教育学部同窓会評議会報告

日 時 平成 27 年 6 月 6 日 (土) 13 時 30 分から
 場 所 教育学部本館 7 階 第一会議室
 出席者等 評議員・理事・役員 139 名 (内委任状出席 93 名)
 会 議 議事については、議長として後藤信義氏を選出し、以下の事項について審議した。



- ① 平成 26 年度事業報告
後藤総務副部長、興戸組織部幹事、浅野事業部長、辻広報部長から資料に基づき報告があった。
- ② 平成 26 年度決算報告
後藤総務副部長から 26 年度の会計決算報告がなされた。
- ③ 会計監査報告
宮本英洋会計監査代理から、会計監査の結果、予算の執行管理等適切に行われている旨の報告がなされた。
- ④ 事業報告及び決算の承認
審議の結果、報告の通り 26 年度事業と決算が承認された。
- ⑤ 次期同窓会会長の選出について
会長推挙委員会友田委員長より、次期会長に田口和男氏を推挙する旨の報告及び推挙理由についての説明がなされた。
これを受け、審議の結果、田口和男氏を次期会長として決定した。
- ⑥ 新同窓会長挨拶
新同窓会長に決定した、田口和男氏からの挨拶。
- ⑦ 新役員の決定承認と報告
田口同窓会長より、新役員の提案があり、これを承認した。
- ⑧ 旧役員の挨拶・紹介
前同窓会長より挨拶があり、旧役員の紹介がなされた。
※※役員交代※※
- ⑨ 平成 27 年度事業計画
後藤総務副部長、興戸組織部幹事、黒田事業部長、辻広報部長から各部の事業計画の提案がなされた。
- ⑩ 平成 27 年度予算審議
後藤総務副部長から、27 年度予算についての提案がなされた。
- ⑪ 事業計画案及び予算案の承認
審議の結果、平成 27 年度の事業計画と予算を承認した。
- ⑨ その他

平成 26 年度教育学部同窓会決算報告

●一般会計

<収入の部>	科目	決算金額
	前年度繰越金	1,530,739
	同窓会費	7,770,000
	事業活動基金より繰入	2,000,000
	雑収入	1,548
	合計	11,302,287

<支出の部>	科目	決算金額
	運営費	2,301,771
	庶務費	1,438,000
	事務管理費	525,684
	役員会費	244,860
	通信費	44,545
	渉外費	9,226
	交通費	39,456
	組織活動費	2,438,193
	名簿管理費	872,928
	名簿作成助成費	30,000
	同窓会入会式費	519,180
	140 周年記念事業費	1,016,085
	学部援助費	46,394
	事務援助費	6,178
	記念庭園管理費	0
	教育文化助成費	40,216
	事業活動費	1,734,177
	成果刊行費	840,672
	会議費	682,260
	事務費	211,245
	広報活動費	2,211,894
	印刷費	1,198,070
	通信費	1,013,824
	次年度繰越金	2,569,858
	合計	11,302,287

●事業活動基金

<収入の部>	科目	決算金額
	前年度繰越金	42,769,043
	利息	8,111
	合計	42,777,154

<支出の部>	科目	決算金額
	一般会計へ繰入	2,000,000
	貸金庫料	8,640
	次年度繰越金	40,768,514
	合計	42,777,154

●教育実践事業基金

<収入の部>	科目	決算金額
	前年度繰越金	3,842,144
	利息	273
	寄付金	200,000
	合計	4,042,417

<支出の部>	科目	決算金額
	教育実践論文顕彰費	390,000
	次年度繰越金	3,652,417
	合計	4,042,417

平成 27 年 6 月 6 日評議会で承認済み。

平成 26 年度 教育学部同窓会活動報告

月	総務部会 等	組織部会	事業部会	広報部会
4	1 同窓生の集い詳細案内発送 7 入学式 19 運営委員会	● 役員変更状況確認	● 第29集印刷開始 ● 教育研修課との打合せ ● 臨時部会；数回	
5	9 監査		● 第29集発刊 ● 第30集に係る教育研修課への依頼 ● 第29集配布作業	
6	2 岐阜大学創立記念行事 7 理事会・評議会の開催 同窓生の集い開催		● 教育事務所長会, 県小中校長 会役員会に協力依頼 ● 県教委へ後援申請	7 第1回部会 (担当分担, 細部打合せ)
7	30 拡大運営委員会		● 県教職員互助会へ助成金申請	● 担当者より会報の原稿の作成依頼
8	25 長良公園で刻字の打合せ	● 会費未納者再請求 ● 1年生IDパスワード配布		● 執筆者の原稿作成 ● 会報の原稿集め
9	● 記念碑刻字作業完了			● 印刷業者の選定
10			● 教育事務所訪問 ● 総合教育センター長訪問	● レイアウト, 挿絵, 配置など
11			● 審査依頼；都市教育長会長, 町村教育長会長, 県小中校長 会長, 同小校長会長, 同中校長 会長	5 第2回部会(編集会議) ● 会報の原稿の校正(初校) ● 会報の原稿の校正(2校)
12				● 同窓会報第20号発行・発送
1	9 拡大運営委員会		26 事業部会	
2	21 運営委員会		15 論文概要入手, 予備審査, 最終審査資料作成	
3	14 臨時理事会 25 教育学部同窓会入会式 及び卒業生との懇親会		3 第二次審査会 12 最終審査会 ● 教育実践研究入賞論文集 - 第30集 - 発刊手続き開始	

学生の就職状況について

教育指導員 田口 和男

昭和43年度生物地学科(生物)卒業

高橋 和子

昭和51年度美術工芸学科卒業

1. オール岐阜大学という考え方

教育学部の学部生、院生、卒業生の教員採用試験受験者は右表の通りである。

今年度も教育学部後援会の支援を頂き、卒業生対象の採用試験学習会を4回開催した。

今後もオール岐阜大学という考えで対策を進めていく。

	現役	院生	既卒 岐阜県	総合計
小学校	100	11	70	181 + α
中学校	47	4	15	66 + α
高等学校	16	15	25	56 + α
特別支援学校	15	2	10	27 + α
幼稚園	2	0	0	2 + α
総合計	180	32	120	332 + α

(+αは他県受験の既卒者数)

2. 多くの同窓会員に支えられて

教育学部生の教員採用試験に向けての取り組みは、多くの岐阜大学教育学部の同窓生に支えられている。今年度は以下の同窓生、大学職員に直接ご指導を頂いた。

【小学校学習指導要領解説の会】 以下敬称略

- ・国語 大塚 頼明(43年国語国文学科卒)
- ・算数 渡邊 勝敏(59年数学科卒)
- ・音楽 子安喜久子(50年音楽学科卒)
- ・体育 谷端 良夫(55年体育学科卒)
- ・道徳 河合 宣昌(53年教育学科心理卒)
- ・総合、生活 高橋 和子(49年美術工芸学科卒)
- ・総則 吉村 嘉文(教職大学院)
- ・社会 上田 貴之(59年社会学科法律・経済卒)
- ・理科 山田 正昭(49年生物地学科地学卒)
- ・図工 竹市 安彦(49年美術工芸学科卒)
- ・家庭 高橋 忠明(48年技術職業学科卒)
- ・特活、英語 後藤 信義(47年英語英文学科卒)
- ・教育法規 伊藤 正夫(教職大学院)

【学部を挙げての集団模擬面接】



面接官を以下の学部の先生方に依頼し取り組んでいる。

- ・教育学部進路相談室(田口, 高橋和)
- ・アクト支援室(大塚, 高橋忠, 山田正)
- ・教職大学院(後藤, 栗田, 吉村)
- ・教育支援部門(小山, 藤本, 山田日)
- ・教育学部就職対策委員(8名)
- ・教育学部教学委員(13名)

【学生の自主的な学習会の様子】



【テーマ学習に励む学生】

学生達は1月から6~7名で自主的にグループをつくり、意欲的に学習会に取り組んでいる。

グループの構成は各県・各校種別・講座中心・同じ実習校中心であったりと様々である。

テーマ学習会では、教育の基本・体罰の根絶・いじめのない学校・学級づくりの基本・児童生徒への対応等々について指導を受けたり、学生同士で議論しあったりして内容を深めている。

面接練習では、取り組みの後半は、自分たちで面接官を決め積極的に取り組んでいる。



【面接官も学生達で】



【仲間との議論】

同窓生の方で教師を目指している方は気軽にご連絡下さい。(毎年、既卒者向けの学習会を行います。相談は下記へ)

月～金曜日 9:00～16:00
進路相談室 058-293-2208

1. はじめに

縁があってこの教育実践研究事業に携わらせていただいている中で、痛感していることがあります。それは、本事業が岐阜県教育委員会、各教育事務所、各市町村教育委員会の教育行政機関と、岐阜県小中学校・小学校・中学校の各校長会の深い理解と絶大な協力が得られなければ存在しない事業であるということです。

今回（第30回）で述べますと、平成27年1月早々に県下の先生方から各市町村教育委員会に1,261点（応募者数1,273人）の教育実践研究論文があげられました。それを各市町村教育委員会、各教育事務所、岐阜県教育委員会教育研修課、そして、最終審査会を経て70点の入賞教育実践研究論文が決定されました。各教育機関の関係者におかれましては年度末の多忙な時期に、献身的に審査をいただいている姿を目の当たりにし、ただただ感謝しているだけです。こうした様々な方のご尽力をいただいているから、本事業が今回、第30回を迎えることができました。

現職の時、師事した上司から、「指導力のある教師は常に自分を見つめることができている。書いている時が自分を見つめている時である。」と、話されたことが脳裏に残っています。確かに、自分の拙い実践を振り返っても、実践を文字にする作業を通して、おぼろげながらですが自信をもって指導できる部分が見えてきました。逆に自分の実践のほころびも、いくつも見えてきました。やはり、自分の日々の実践の成果や課題が整理でき、新たな取組の方向が見えてきた時はその実践を書き留めている時でした。

教育実践研究事業の最近の傾向として、20代、30代の若い先生方が多く応募されています。今回は全体の80%を超えました。

子どもの「学力向上」には様々な方策が考えられますが、日々子どもたちと直に接している教師の指導力向上が不可欠です。自分の実践を書き留め、自らの指導力を磨かれていく先生方にさらに期待してまいります。

2. 応募状況と傾向

○平成26年度の実績は＜表1＞＜表2＞のとおりでした。

＜表1＞職種別、年代別、性別応募人数（総計1,273名）

校種	職種別											年代別						性別		
	校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	講師	A・L・T等	小計	20代	30代	40代	50代	60代	小計	男性	女性	小計	
小	6	4	0	694	21	8	5	30	0	768	425	164	127	51	1	768	319	449	768	
中	1	0	3	482	8	1	2	8	0	505	258	173	55	19	0	505	328	177	505	
総計	7	4	3	1176	29	9	7	38	0	1273	683	337	182	70	1	1273	647	626	1273	

＜表2＞領域別応募論文数（小764編、中497編 総計1,261編）

校種	教科											教科以外										
	国語	社会	算数・数学	理科	生活	音楽	図・美	技家	保体	英語	小計	道徳	特別活動	総合学習	外国語活動	学級経営	生徒指導	特別支援	健康安全	管理経営	その他	小計
小	134	72	131	32	23	35	16	12	42	8	505	39	39	7	19	61	4	34	24	14	18	259
中	50	47	60	55	0	20	15	20	35	66	368	11	14	5	0	42	6	25	9	5	12	129
総計	184	119	191	87	23	55	31	32	77	74	873	50	53	12	19	103	10	59	33	19	30	388

○応募の傾向

- ・入賞者 70 名のうち、教諭だけでなく多様な職種から入賞しました（養護教諭 7 名、主幹教諭、栄養教諭、講師各 1 名）。
- ・20 代、30 代の教員で 80% を超え、とりわけ 20 代の先生方が 50% を超えました。
- ・「分かる喜び」「できる喜び」を味わわせる等、教育の不易の側面に重きを置いた入賞論文が目につきました。

3. 審査会の報告

(1) 審査の経過

応募された論文は、市町村教育委員会における審査⇒各教育事務所における審査（第 1 次審査）⇒県教育委員会教育研修課における審査（第 2 次審査 H27.3.3）⇒最終審査会（H27.3.12）の過程を経て、最優秀賞、優秀賞、優良賞、新人賞が決定しました。

最終審査会の審査員は次の方々をお願いしました。

【審査員】学識経験者 2 名、教育研修課研修企画監、同課長補佐、各教育事務所長、各教育事務所教育支援課長、県都市教育長会長、町村教育長会長、県小中校長会長、県小校長会長、県中校長会長

(2) 審査の観点

審査は次の 5 つの観点から厳正に行われました。

- ① 教育の今日的な課題を踏まえ、解決の方向が明確になっているか。
- ② 教育現場に密着して、目標、計画、指導、評価の一体化が図られているか。
- ③ 児童生徒の成長や変容の姿がよく表れているか。
- ④ 研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られ、説得力のある論文であるか。
- ⑤ 教育実践・研究論文として明確な表記であるか。



【最終審査会の様子】

(3) 最優秀賞の決定

上記の観点から 10 点の優秀賞が選ばれ、最終審査会の場で、更にその中で最も優れた論文「最優秀賞」が次のように決定しました。

岐阜市立岐阜中央中学校

森 哲也 教諭（保健体育）

■論文テーマ■

主体的に運動に取り組む生徒を育てる体育授業の創造
～第 1 学年女子 器械運動の実践を通して～

審査の中で、森教諭の論文が優れている点として挙げられたことを列記します。今後の参考にさせていただけたら幸いです。

- ・「器械運動は嫌い」という生徒の意識に目を向け、上達する喜びや仲間と関わり合うことの楽しさを味わわせることで解決を図りたいという熱意に満ちた実践である。
- ・詳細な学習記録の蓄積と客観的データの有効的な活用を行うなどして、生徒の変容を分析的に捉えている。
- ・生徒相互が互いの課題を指摘し合う場合に、ICT 機器を有効的に活用し、技能の習得や向上につなげている。

4. おわりに

第二次審査会、最終審査会の中で、審査員から次のような意見・感想がありました。

- ・多忙な中、熱心で果敢なチャレンジ（論文応募）をしている教職員の皆さんに敬意を表したい。
- ・実証性、再現性、客観性のある論文であってほしい。それが、ベテラン教師が多く退職する今、必要とされる論文である。読むことによって、実践に役立つ論文が全国に広がっていくことを強く望む。
- ・論文作成に当たったの基本をきちんと踏まえていきたい。引用資料の出典を明記しているか、個人情報や肖像権の扱いは大丈夫か、統計学に正しい処理を行っているかなど。
- ・自主性、主体性を大切にしていくためにも、子どもに「教え、鍛えること」をためらわずに行ってほしい。

応募された教職員の皆さんが、自分をさらに磨くために、日常の教育実践を書き留めるといった負荷をかけ、努力されたことに価値があります。今後も多くの皆さんが教育実践論文に応募されることを期待しています。

なお、平成 10 年度から今日に至るまで、当事業推進のため、財団法人岐阜県教職員互助会から教育文化助成金をいただいていることを追記します。



第30回（平成26年度）岐阜県小中学校 教育実践研究論文受賞者一覧

最優秀賞（1編）		
岐阜市立岐阜中央中	森 哲也	主体的に運動に取り組む生徒を育てる体育授業の創造 ～第1学年女子 器械運動の実践を通して～ <保健体育>

優秀賞（9編）		
岐阜市立長良東小	細江 達三	事実を大切に考察することができる子が育つ理科学習 ～仲間の結果を取り入れて総合的に考察する指導に重点を置いて～ <理科>
岐阜市立加納小	清水 哲弘	よりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育成する学級活動の在り方 ～自治的、自発的に問題を解決する話し合い活動を通して～ <特別活動>
大垣市立興文小	棚橋 直仁	「分かる喜び」から「できた喜び」の実感を味わえる算数科指導の工夫 ～活用問題を解決するためのアイテムの改良と学びを実感できる指導を通して～ <算数>
池田町立八幡小	中島 美鈴	発達障がいのある児童とその保護者にとって、心のよりどころとなる通級指導教室での支援の在り方とその役割 ～児童・保護者・教師・専門機関における「つなぐ」支援を通して～ <特別支援>
郡上市立大和中	武藤 大輔	納得のいく学びをつくりだす理科指導のあり方 ～つけるべき力を明確にした指導・援助・評価を大切に～<理科>
七宗町立神淵中	安藤 美紀代	『自ら健康でいきいきとした生活を送ることができる子の育成』 ～「すっきりお目覚めプロジェクト」を通して生活習慣の定着と自己管理能力の高まりを目指して～ <健康安全>
土岐市立泉西小	廣島 由美子	生き生きと学ぶ子をめざして ～「できた、わかった」と実感できる算数科指導の在り方～ <算数>
恵那市立大井小	松村 香里	どの子も生きてはたらく確かな読みの力が育つ国語科学習 ～魅力ある言語活動により、主体的な読みの姿を求める中で～ <国語>
白川村立白川小	猪又 昌宏	主体的に判断する力を高め、よりよい自己の生き方を見いだす道徳の時間の在り方 <道徳>

優良賞（40編）		
岐阜市立加納小	岡田 絵未里	意欲をもって、社会的自立に必要な力を育んでいく子 ～自閉症・情緒障がい学級における自立活動を通して～ <特別支援>
岐阜市立網代小	稲葉 悠	主体的に歯・口の健康づくりに取り組むことができる児童の育成 ～様々な機会を生かした取り組みと連携を中心に～ <健康安全>
岐阜市立長良東小	有志 智和	よりよい生活を求めて 主体的に行動する力が育つ学習の在り方 ～仲間とかかわる学習活動を通して～ <特別支援>
羽島市立正木小	野田 剛志	自分らしさを発揮して「かかわり合う力」を磨き仲間と共に高まり合う子 ～続わかば教室をよすがとした発達障がい児支援のあり方～ <特別支援>
羽島市立竹鼻小	島戸 秀人	基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、思考力・表現力を育てる算数科学習 ～言語活動の充実を通して～ <算数>
各務原市立鷺沼第三小	中野 美奈子	自分の思いを伝え、仲間と学び合う楽しさを味わうことのできる学級集団の育成 ～自分の思いや考えを伝える活動より～ <学級経営>
各務原市立蘇原第一小	津馬 史壮	互いに尊重し合い、豊かな人間関係を築くことのできる児童の育成 ～養護教諭の専門性を活かした「性に関する指導」を通して～ <健康安全>
各務原市立稲羽中	片岡 淑江	養護教諭の専門性を活かした「楽しい」「わかる」「できる」中学校保健教育の在り方 ～生活習慣病予防に関わる指導を通して～ <健康安全>
山県市立富岡小	神山 雄輝	教科化を見据えた道徳力の育成の実践 <道徳>
瑞穂市立本田小	小木曾 陽子	全教育活動における道徳教育を補充、深化、統合する道徳の時間の在り方 ～「土と光の学習」における体験活動、学習活動の充実と道徳の時間への生かし方～ <道徳>
本巣市立土貴野小	棚橋 弘子	学び方を確実に習得し、意欲的に考えることのできる社会科学習のあり方 ～基礎的・基本的な技能を習得し、自ら探究できる「発見のある社会科授業」を目指して～ <社会>
岐南町立西小	杉山 浩隆	自治的能力及び自己指導能力の育成 ～話し合い活動の充実を通して～ <特別活動>
北方町立北方中	木村 宏枝	主体的に課題を追究し、「確かな学力」を、身に付けた生徒の育成 <理科>
大垣市立興文小	栗田 佐恵子	主体的な学びを生み出し、思考力・判断力・表現力を育む理科の活用学習 ～小学校3年生の理科の指導を通して～ <理科>
大垣市立興文中	小木曾 史明	自らコミュニケーションを図り、自分の考えや気持ちを伝え合う生徒の育成 ～意思をもち、より豊かな表現を追究する学習集団の育成を通して～ <英語>
海津市立平田中	森 崇	科学的な思考力、表現力を育成する理科指導の在り方 ～生徒の意識を明らかにし、形成的評価を積み重ねる指導を通して～ <理科>
養老町立広幡小	松永 紗貴	社会的事象に主体的にかかわる子どもを育てる社会科学習 ～「分かる」喜びを味わえる歴史の授業づくりを目指して～ <社会>
関ヶ原町立関ヶ原小	宮原 慶介	社会的事象の意味を追究し続ける子の育成 ～児童が自分の社会的な見方や考え方の高まりを味わうことのできる社会科学習を通して～ <社会>
安八町立登龍中	堀 一智	確かな学力を身に付け、自己を表現できる生徒の育成 ～仲間とのかかわりの中で、分かる喜びを味わえる授業実践を通して～ <社会>
揖斐川町立坂内小	小澤 飛鳥	自ら考え表現し、活用しながら読みの力を高めていく子の育成 ～少人数複式学級での「読むこと」の指導を通して～ <国語>

大野町立西小	細江 快	生命観を高める理科指導の在り方 ～生きている証拠を表現できる姿を目指して～	<理科>
関市立安桜小	伏見 はるか	望ましい食習慣を身に付け、自分で行動できる子の育成 ～学校と家庭が連携した朝食指導を通して～	<健康安全>
関市立桜ヶ丘中	花村 英泰	生徒の困り感に基づいて特別な教育的支援のできる教師集団の育成 ～特別支援教育の専門性を高める特別支援コーディネーターとして働きかけを通して～	<特別支援>
美濃市立昭和中	船坂 久美子	主体性を育む特別支援教育の在り方 ～生徒一人ひとりにとって、楽しさ・喜びのある授業づくりを目指して～	<特別支援>
郡上市立那留小	横山 亜希	主体的に読み、豊かに表現する力を育む国語科学習 ～主たる言語活動を位置付けた単元構成の工夫～	<国語>
美濃加茂市立太田小	河路 大輔	数学的な思考力・表現力及び知識・技能を身に付ける指導の在り方 ～言語活動を通して、思考力・表現力を高める少人数指導の工夫～	<算数>
可児市立今渡北小	若園 万莉奈	生活習慣調査を用いて、自ら早寝を実践できる児童の育成 ～児童の行動変容と保護者の関心の影響に着目したアンケートを用いる保健指導の実践～	<健康安全>
可児市立旭小	松田 友香	仲間と積極的にかかわる中で、よさを認め合い共に高め合える児童の育成 ～集団として高まり合える人間関係作りを目指して～	<学級経営>
御嵩町立御嵩小	大塚 由美	数学的な思考力・表現力を育てる指導のあり方 習熟の程度に応じた指導方法の工夫改善 ～4年(チャレンジAコース)の指導実践から～	<算数>
土岐市立下石小	佐々木 美樹	「できた！わかった！」と喜びを実感できる子の育成 ～基礎学力をつける算数科授業のあり方～	<算数>
瑞浪市立瑞浪小	加藤 美香子	自己修正をして、正しく発音しようとする子 ～聴取弁別と構音の指導を通して～	<特別支援>
瑞浪市立陶小	尾崎 エミリ	意欲を高める言語活動の在り方 ～5年生 物語教材を通して～	<国語>
恵那市立大井小	遠山 意保子	自己肯定感を高めるためのA児への構音指導の在り方 ～実態把握に基づいたサ行音の練習「神経衰弱ゲームをしよう」の実践を中心に～	<特別支援>
多治見市立平和中	古川 浩行	よりよい動きを求めて運動に取り組む児童・生徒の育成	<保健体育>
恵那市立恵那東中	佐々木 真	誰もが安心して過ごすことができる学級づくりの工夫 ～一人ひとりの生徒が仲間と思いをつなぎ合うことを通して～	<学級経営>
中津川市立坂本中	松原 元樹	「誰もがわかる授業づくりによる基礎的・基本的な学力の向上」 ～授業のUD化と夢ノートの実践を通して～	<社会>
高山市立東小	谷澤 真希子	学校生活の中でB児に確かな学力と生活力をつける指導 ～視覚支援を土台としたスモールステップの指導と人との関わりを通じて～	<特別支援>
飛騨市立河合小	山崎 浩美	「読む力」を高める国語科指導の在り方 ～目的に応じて理解し、解釈する力の育成をめざす授業の工夫～	<国語>
下呂市立竹原中	大平 樹奈	一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の創造 ～個別の教育支援計画の活用による全校体制の確立～	<特別支援>
飛騨市立神岡中	加納 聡	「見通す力」を身に付け、意欲的に学ぶ生徒が育つ体育学習 ～「結論」「根拠」を考えることによる終末からの授業改善～	<保健体育>

新人賞 (20編)			
岐阜市立則武小	松浦 友里	仲間との関わりを通して自己の内面を追求し、自分の思いを豊かに表現できる道徳教育 ～自尊感情や自己肯定感を高め、道徳実践力を育てる道徳指導～	<道徳>
羽島市立竹鼻小	土生 雄一	興味関心を高め、仲間とともに学び深める子どもの育成 ～知識の構造図を通して～	<社会>
各務原市立中央中	山本 美紗	微視的な見方や考え方を養う理科授業の創造 ～第3学年「化学変化とイオン」の学習を通して～	<理科>
本巣市立真正中	川合 泰治	「願い」を具現化することを通して、技能を身につけ、表現力を高める生徒をめざして ～自画像の実践を通して～	<美術>
北方町立北方西小	川村 由香理	豊かな心をはぐくむ道徳教育の在り方 ～「思いやり」の心と態度を育てる道徳の授業の工夫と学校生活全般において道徳実践力を高める指導を通して～	<道徳>
大垣市立西小	杉野 博香	社会的な見方・考え方を身に付け、自分の思いや考えを豊かに表現できる子を目指して ～人々の願いや生き方にせまる地域学習を通して～	<社会>
垂井町立岩手小	藤井 比美子	筋道立てて考え、意欲的に学び、伝える子の育成 ～知識・技能の習得や定着を図り、思考力・判断力・表現力等を育むことにつなげる授業～	<算数>
神戸町立北小	高木 綾子	どの子にも「できた」という喜びのある体育科学習を目指して ～ユニバーサルデザインの手法を取り入れて～	<体育>
揖斐川町立大和小	小里 和香	主体的に望ましい生活習慣を身に付ける子の育成 ～「排便」指導の取組を通して～	<健康教育>
関市立桜ヶ丘小	山田 純也	目的や意図に応じて適切に「書くこと」ができる児童の育成	<国語>
郡上市立高鷲中	野畑 郁絵	仲間と望ましい人間関係を築き、充実感をもって活動に取り組む生徒の育成 ～仲間を認めることができる1年A組学級づくり～	<特別活動>
七宗町立上麻生小	市岡 みゆき	楽しさと確かさの中に美しさを味わえる子をめざして ～音楽科におけるイメージを持ち表現につなげる指導のありかた～	<音楽>
御嵩町立上之郷中	安江 友香	仲間と共に学び合い、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、思考力・表現力を高める国語科学習の在り方 ～「書くこと」の指導を通して～	<国語>
御嵩町立向陽中	佐橋 宏法	技術科における基礎的・基本的な技能の定着を図るための工夫 ～「トランクの製作」を通して～	<技術・家庭>
多治見市立小泉小	白田 恵	家庭での実践意欲を高める授業の工夫 ～確かな知識・技能の習得を目指して～	<家庭>
恵那市立大井小	加藤 奈月	自分の健康を自分で維持向上できる子の育成 ～めざせ！歯肉炎ゼロ 保健室の機能を活かして～	<健康教育>
中津川市立南小	原 裕明	仲間と学び高める子の育成 ～ポートボール・跳び箱の授業を通して～	<体育>
瑞浪市立陶中	山田 暁廣	技能の向上を目指し、主体的に運動に取り組める生徒を育成する教科指導 ～技術ポイントを視覚的に捉えた相互援助活動の工夫～	<保健体育>
飛騨市立山之村中	谷口 正英	一人一人に確かな学力をつけるための数学科指導 ～9年間を見通して～	<数学>
白川村立白川中	新井 良太	堂々と語ることでできる生徒を育成する生徒会活動を目指して	<特別活動>

目の前の生徒と真摯に向き合う

大垣市立興文中学校 小木曾 史明

平成16年度 英語教育講座卒業

平成17年4月…可児市の中学校で私の教員生活は始まりました。それから早11年…私はこれまで教師としてたくさんの失敗をし、たくさんの感動を味わってきました。特に大学卒業後すぐに赴任した初任校で学ばせて頂いたことは、今でも私の支えとなっています。

迎えた3年目、私は初めて3年生の担任をすることになりました。当時の私は「自分のやり方が全て」という考えをもっており、学級経営に熱く取り組んでいました。しかし、当然ながら自分の思うように動く生徒ばかりではなく、なかには私のやり方に抵抗を示したり、学級の雰囲気や乱したりするような生徒もいました。私はそのような生徒たちに対して為す術もなく、「関わると余計に問題が起きる」と、積極的に関わらないようになり、遅刻・欠席が増え、不登校となる生徒も現れました。学級には平和が訪れましたが、最後まで自分が目指していた学級のまとまりを感じる事ができず、1年を終えようとしていました。そんなとき、様子を見かねたベテランの先生から、「もう一回、教師として“ゼロ”からやり直した方がいいんじゃない？担任として失格だ。」と厳しい言葉を掛けられました。

そして、多くの初任者が3年で異動するなか、私は“ゼロ”からやり直すため、もう1年、初任校に残ることにしました。前年度に引き続いて、私は3年生の担任をすることになりました。前年度以上に生徒指導上大変な生徒の多い学年でした。しかし、そのような生徒から決して逃げないことを決意した私は、授業の空き時間の合間を縫って相談室登校の生徒に声を掛けたり、なかなか指導の入らない生徒にも突き放すことなく自分の思いを伝え、温かく関わったりするようになりました。問題を起こしても、怒りをぶつけるのではなく、その生徒の思いを受け止め、共に悩みながら解決方法を考えました。その結果、修学旅行を目前に控えたある日、私は担任として初めての経験をしました。それは、「全員出席」です。「教室に空き机が1つもない景色がこんなにも素敵なものだったのか！」—私はそのときに感じたうれしさと感動を、生徒たちに懇々と伝えました。そして迎えた修学旅行…私の学級は7学級のなかで唯一、「全員出席」を達成することができました。

それから学級には目を見張る変化がありました。それは学級のリーダーを中心に、多くの生徒たちが要援助生徒に関わるようになったのです。休み時間に相談室に行って「教室で一緒に授業を受けよう。」と声を掛ける生徒、授業を抜けようとする生徒に「ダメやろ。」「頑張れ。」と注意をしたり励ましたりする生徒…まるで私が苦労してやってきたことを代わりにやってやっているようでした。やがて学級に一体感が生まれるまでにそう多くの時間はかかりませんでした。この1年で学んだことは「生徒たちは担任の姿(生き方)をしっかりとしている。」ということです。

今年度受け持つことになった3年生の学級開きで、私は担任の願いとして“Only One”という言葉掲げました。何を隠そう、この言葉は先述のベテランの先生が掲げていたものです。今まで恐れ多くてなかなか使えなかった言葉をとうとう解禁しました。「人は誰にでも、その人にしかない“Only One”のよさがある。」—これからも目の前にいる全ての生徒を愛し、一人一人の個性を尊重し、よさを伸ばせる教師でありたいと考えています。



子どもたちと一緒に向上心をもって

岐阜市立則武小学校 松浦 友里

平成 21 年度 生涯教育課程 卒業
平成 23 年度 カリキュラム開発専攻 修了

「向上心」これは、本校で児童も教師も大切にしている志です。目標をもって、それに向かって努力し続ける強い意志と行動力のことです。私の昨年の1年間は、校長先生をはじめ多くの先生方や保護者の方々に支えられて、子どもたちと一緒に向上心をもって突き進むことができた1年でした。

昨年度、私は、初めての1年生を受けもちました。自分が希望した学年でもあり、期待と同時に大きな責任を感じていました。私も子どもも1年生。義務教育の最初の基礎を築く1年間を任されたという大きな責任と不安と期待。入学式、初めての学級活動、子どもたち以上に緊張していたことを思い出します。子どもたちと接する中で、子どもたちは私にたくさんのことを教えてくれました。

その中でも、ある子との出会いが私を成長させ、教師としての使命感、喜びを教えてくれたのでした。その子は、入学式からとても気になる児童でした。学級の中で離席や乱暴な言動が目立つ子でした。いつも暗い目をして、どこかを睨みつけている、友だちとも大人とも関わろうとしない子でした。私は担任として、打っても響かない彼の心に一体何があるのだろうと気になって仕方ありませんでした。彼は、仲間と関わろうとする意欲や自分を大切に思う気持ちに弱さが見られました。どこか、心が満たされず、それが数々の言動に結びついているのではないかと考えました。私は、彼自身が自分のよさに気づき、学級の仲間たちとの関わりを通して、心豊かに生きていこうとする子になってほしいと強く願いました。彼に私は担任として何をしてあげたらよいのか、いろいろな先生方と相談しながら、彼のよさを褒めて認め自信をもたせること、よくない言動は、何がよくないのかを理解させ善悪の判断力を付けさせること、彼の保護者と信頼関係を築くこと、そして、心を耕す道徳授業を核として彼にアプローチしました。こうした取り組みの中で、彼はぐんぐんと成長していきました。

仲間と関わりながら心を開放し、自分の思いを豊かに表現できるようになった彼は、とても落ち着いて生活し、何事にも向上心をもって頑張れるようになりました。修了式の日、私が「今日、この通知表を渡したら2年生だね。先生と過ごすのも最後だね。」と言うと、彼は順番が来ても通知表をいつまでも受け取ろうとしませんでした。2年生になって、「友里先生にあげるためにトマトを育てているよ。」と言って1つだけくれた彼の姿は、私の教師人生に最も印象強く残るような気がします。

彼自身が日に日に変わり、彼を中心に学級全体が高まる姿に感動したり、できるようになることが増えていく喜びを子どもたちと一緒に心から喜んだりすることができる教師という職業は、他にはないものです。学年が上がって休み時間や研究授業などで子どもたちを見るたびに、すくすくと成長していることを感じ大変嬉しく思います。

今年は37人の5年生の担任です。高学年ということもあり、また違った難しさを感じていますが、子どもたちの笑顔を願って、常に向上心をもち努力を続ける教師でありたいと思います。



退職された教員のご紹介

平成 27 年 3 月 31 日をもって、
退職された教員は次のとおりです。

伊藤 正夫	特任教授	教職実践開発専攻
小島 道生	准教授	特別支援教育
佐藤 正寿	助教	数学教育
佐原 秀一	准教授	音楽教育

(50 音順)

新しく着任された教員のご紹介

平成 27 年 4 月 1 日付けで、
着任された教員は次の通りです。

近野 賢一	助教	音楽教育
柴崎 直人	准教授	教職実践開発専攻 教育臨床実践コース
菱川 洋介	助教	数学教育

(50 音順)

「住所不明者一覧表」について

同封の住所不明者一覧表について

今回の調査で 5 回目になりますが、「住所不明者一覧表」を同封しております。これまでの調査に、大勢の方がご協力くださり、誠にありがとうございました。今回、3 年ぶりに調査を行うことになりました。

今回の不明者リストは、教育学部を昭和 41 年度以降に卒業された会員の方に絞り掲載しております。

一覧表のなかには昨年までの調査時にご連絡をいただいたにもかかわらず、今回の不明者一覧にお名前がある方もみえると思いますが、これは教えていただいた住所に後日会報を郵送した結果、宛先不明で郵便局より戻ってきた場合や、教えていただいた住所が間違っていた場合などがございますので、何卒ご了承ください。

さらに、お手元に届いている方でも住所変更で転送されたり、実家に送られているなどで、届け先を変更されたい方のご連絡もお待ちしております。

住所不明者調査の方法は、「本人様・ご家族及び本人様の了解を得た代理の方から」とさせていただきます。

もし、一覧表の中にあなたがご存知の友人・知人がいらっしゃいましたら、ぜひその方に不明になっていることをお伝えいただき、本人様から、または本人様の了解を得て同窓会事務局へご連絡いただきますようお願いいたします。

ご連絡は、郵便・FAX・Eメールで受け付けております。

(電話でも受け付けておりますが、正確を期するため、できるだけ電話以外の方法でお願いいたします。)

＜お伝えいただきたい事＞ このリストの不明者 No, 卒業学科, 卒業年度, お名前, 住所, 連絡先電話番号

【連絡方法】 はがき 〒501-1193 岐阜市柳戸 1 番 1 岐阜大学教育学部内 同窓会事務局 宛
電話・FAX 電話：058-293-2344 (受付時間：平日 10 時～15 時, 休業期間 12/26～1/6) Fax：058-293-2343
Eメール kyo_doso@gifu-u.ac.jp

注意：同窓会事務局では、会員の個人情報の開示は行っておりませんのでご了承ください。

各学科同窓会の活動

事務局より原稿依頼を行い、原稿が届いた学科のみ掲載しています。

国語 (事務局 恵那市立恵那東中学校 小島 光太郎)

学科として定期的な活動を行っておらず、関係の皆様にはご迷惑をおかけしております。
事務局として、同窓会名簿作成の業務を進めていきます。
今後ともよろしくお願い致します。

地理 (事務局 海津市立海西小学校 坂口 亨)

1, 第41回同窓会「濃飛の集い」

第47回生(代表 道家信彦)が担当

【期日】平成27年8月1日(土)
13時~16時

【会場】岐阜市黒野会館1階実習室
及び岐阜モスク

(1)総会

- ・開会あいさつ
- ・実行委員(47回生)あいさつ
- ・恩師の先生方のお話
- ・参加者の紹介
- ・諸連絡
- ・開会あいさつ



(2)講演

演題 「岐阜大学周辺地域に居住するイスラム教徒とモスクでの活動について」

講師 ラハマン ショフィクル氏

イスラム原理主義を掲げる集団の活動が世界的に注目されている。その一方で私たち日本人は、イスラム教の教えやその信者の生活などについて理解が十分であると言い難い状況にある。ともするとメディアの情報により、先入観や偏見を抱いている可能性もある。今回の「濃飛の集い」では、イスラム教徒であるラハマン氏、岐阜モスクの協力を得て、教え、文化、信者の生活の様子などについて学ぶとともに、岐阜大学付近に建設された岐阜モスク内を見学した。岐阜大学周辺では、イスラム教徒が増加傾向にある。周辺の小中学校では、信者の児童生徒のため、食事や礼拝、ラマダンなどに対応できるよう努めている。今後、県内の小中学校でも同様の対応が必要となる可能性が高い。卒業生の多くが教職に就き、社会科を教える立場となる本科において、イスラム教とその信者について理解を深められたことは大変有意義であった。

2, 次回活動予定 平成28年8月6日(土)
第48回生(代表 小椋 宮原)が担当

物理 (事務局 郡上市立大中小学校 奥田 好紀)

学科として、定期的な活動は行っていません。
各学年の情報や同窓会名簿の修正について事務局までお知らせいただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

数学 (事務局 岐阜市立長良東小学校 大石 章生)

(1)総会

【開催日】平成27年5月17日(日)

【会場】岐阜大学教育学部 本館7階 第1会議室

【講演】岐阜大学教育学部 数学教育講座 准教授 田中 利史 先生
演題 「結び目の研究と数学教育について」

【研究会】発表者 岐阜大学附属小学校 南谷 雄一 教諭
岐阜大学附属中学校 安井 慶一 教諭

当日は、岐阜大学の岩田恵司名誉教授、山田雅博教授にも参加していただくことができ、約50名の会員の方と共に充実した研究会を行った。

会の終了後、会員同士の親睦を深めるために懇親会を行った。



(2)本年度の活動計画

○同窓会名簿「わしょう」の作成

本年度は同窓会名簿の改訂・発行の年度にあたり、今年度中に会員に名簿を発送する。

(運営委員会開催と改訂作業)

○数学科卒業予定者に対するの説明会

数学科卒業予定者に対して、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明会を行う。
(平成28年2月予定)

○来年度以降の計画立案

運営委員会を行い、来年度以降の計画を立案する。
(平成28年3月予定)

(1) 同窓会運営

① 総会

隔年の開催となっており、本年度は開催なし。

② 「佐藤先生のご退職を祝う会」

- ・平成27年8月29日(土)
「佐藤先生のご退職を祝う会」運営委員会開催
- ・平成27年11月14日(土)
「佐藤先生のご退職を祝う会」実行委員会開催予定
- ・平成28年3月下旬頃
同窓会運営委員会・「佐藤先生のご退職を祝う会」実行委員会合同会議開催予定(総会準備)
- ・平成28年5月15日(日)
「佐藤先生のご退職を祝う会」開催予定
同時に同窓会報「かんきせん」(記念特集号)を発行予定



(2) 研究会活動

岐阜かがく教育研究会の活動

毎月1回ほど、会員が岐阜大学附属学校に集まり、指導案協議や教材開発・実験などを行い、幅広く学びあっている。

平成27年12月末 実践発表会(岐阜大学附属学校)開催予定
同日 総会・懇親会(グランヴェール岐山)開催予定

(3) 現役学生との交流活動

毎年2月に開催される「大学卒業論文・大学院修士論文発表会」に同窓会員も数名参加し、学問研究に触れたり、教育現場の立場からアドバイスしたりしている。

「送別会」にも数名参加し、学生と教員・産業界等の同窓生との交流を深めている。

音楽 (事務局 郡上市立小川小学校 羽土 聡)

今年は、次回の総会や会報発行にむけて、以下のような活動をしています。

(1) 卒業生対象に同窓会入会説明会

- ・2月19日に棚橋会長と羽土理事長が、音楽棟で卒業生12名を対象に、入会説明会をしました。同窓会の組織や活動内容の説明、理事の確認、名簿の作成等を行いました。

(2) 卒業記念コンサートを応援

- ・2月22日に同窓会役員が、サランカホールで実施した卒業記念コンサートのリハーサルに伺いました。同窓会からステージ両サイドを彩る花を贈呈しました。

(3) 会報「間」編集委員とともに事務局会

- ・8月1日に、事務局4人と編集委員2名が、平成28年に実施する総会と会報の内容、今後の見通しについて検討しました。

◇同窓会・研究会活動

- 「卒業論文・修士論文発表会」への参加

- 「地学年末研修会」の開催

【期日】平成26年12月29日

【会場】石金

【内容】実践交流会, 研究会, 懇親会など



毎年、12月29日に開催しています。参加していただける方は、事務局まで連絡をお願いします。

美術 (事務局 岐阜市立青山中学校 小野 由加里/辻 泰秀)

(1) 造形教育の全国大会の開催

平成27年11月12(木)・13日(金)に全国造形教育連盟と日本教育美術連盟の合同の全国大会(岐阜大会)が開催されました。幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校・大学の全校種が参加し、長良川国際会議場で全体会を実施し、各学校園で授業や保育が公開されました。当日はもちろん、事前に運営、指導案、研究発表等について先生方が真摯な取り組みをして下さり、ありがとうございました。全国からの参加者との交流もありました。素晴らしい成果を得たことをご報告するとともに、多くの皆様からのご支援に感謝申し上げます。

(2) 第64回卒展・第9回在校生展のお知らせ

平成27年2月16日(火)～21日(日)に岐阜県美術館において平成28年度卒業生(64期生)による卒業制作展が開催されます。10年程前から大学院の修了制作展、在校生作品展も同時に行っています。現在の美術教育講座(旧美術工芸学科)の様子を知る機会です。10時～18時(最終日は16時まで、19日は21時まで)です。ぜひ足をお運び下さい。

また、大学祭に合わせて在校生作品展を開催しています。本年度は平成27年10月31日(土)11月1日(日)に、岐阜大学全学共通教育棟にて行われました。毎年度大学祭期間中に開催されますので、ぜひお立ち寄り下さい。

(3) 在校生の活躍, 受賞

このような大学での研究の成果として、本年度の岐阜県美術展で絵画と彫刻で最優秀賞、岐阜市美術展の彫刻でも最優秀賞をそれぞれ受賞し、各展覧会で多くの入賞者を出すことができました。また、造形教育の全国大会(岐阜大会)でも、岐阜中央中学校会場において、大学の1～4年の学生も小・中学生や園児を対象にした公開の授業と保育を行いました。これからも先輩の皆様のご理解とご協力をいただき、実践的指導力を高めていきたいと考えます。

体育 (事務局 飛騨教育事務所 川治 秀輝)

(1) 総会、還暦祝いの会及び懇親会

[期日] 平成27年6月13日(土)

[会場] ホテルグランヴェール岐山

[出席者] 68人

[総会内容]

- ① 新入会員(20人)と物故者(5人)の報告
- ② 26年度会務、事業報告、会計報告及び監査結果
- ③ 27年度事業計画及び予算案の承認
- ④ 大学の近況報告
- ⑤ 還暦祝いの会
- ⑥ 懇親会

(2) 事業の内容

- ① 平成26年1月から6月の間に役員会を2回、常任理事会を1回開催して、各種の事業について検討した。
- ② 在学生優秀選手の選出を行い、2月に表彰した。
対象者38人に表彰状及びメダルを授与した。(役員3名出席)
- ③ 3月25日に新入会員の入会式を開催した。(役員3名出席)

技術 (事務局 岐阜市立長良中学校 中西 健)

昨年10月11日に、3年に1度の総会及び懇親会を実施しました。今年度は、新役員体制で活動を始めました。次回の総会は平成29年度に岐阜地区を会場として実施する予定です。

【研究会活動】

- 第29回 岐阜県中学校技術・家庭科研究大会 加茂大会
1. 期 日 平成27年10月22日(木)
 2. 授業会場 可児市立中部中学校
 3. 全体会場 広見公民館ゆとりピア
 4. 研究主題 生活に生かすことができる確かな実践力の育成
～「工夫し創造する能力」の育成を図る指導過程の在り方～
 5. 内 容 エネルギー変換に関する技術「エネルギーの安全で有効な利用と電気回路の仕組み」

ご不明な点などがありましたら、同窓会事務局までお問い合わせください。ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

英語 (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 水崎 綾香)

本年度、岐阜県教育委員会教育長の松川禮子様をお迎えして、3年に一度の総会及び懇親会を実施いたします。ぜひ多くの同窓生の方々にご出席いただきたいと思います。

平成28年1月31日(日)、グランヴェール岐山において10時より『平成27年度 岐阜大学教育学部英語英文学科・英語教育学科同窓会総会』

【日程】

- 10:00~10:30 総会
10:30~11:30 講演会
『今後の小・中学校の英語教育の動向』
講師：岐阜県教育委員会教育長 松川禮子様
11:45~14:00 懇親会

◇今後の活動について

会員の住所変更があった場合は、評議会でご各評議員が書記に連絡していただきますようお願い致します。

家政 (事務局 吉田 麻子)

1 平成27年度の活動

(1) 同窓会総会

悪天候の為延期していた平成26年度総会を平成26年12月4日(日)にグランヴェール岐山にて開催しました。

(2) 同窓会幹事引継

平成27年度～平成31年度の5年間幹事となる5名に前期幹事5名から引継が行われました。平成27年2月14日(土)後藤屋にて開催しました。

(3) 会員の現況調査発送業務

名簿管理のため、会員の現況調査依頼文書及び前年名簿情報を、年次代表者の方宛に幹事5名で発送しました。平成27年7月11日(土)家政事務局にて行いました。

回収した現況調査資料は平成27年8月26日(水)に岐阜大学同窓会事務局宛で一般書留にて発送しました。

2 今後の活動

(1) 岐阜大学教育学部同窓会会員専用サイトの会員データの更新、岐阜大学教育学部同窓会会員専用サイトを積極的に活用できるようにするため、現況調査の結果を同窓会会員専用サイトに反映予定です。8月以降、直接会員が更新したデータを除き、平成27年10月31日(土)に幹事5名にて家政事務局にて更新作業を行う予定です。

(2) 同窓会総会

次期総会は平成31年8月に開催予定です。

学校教育 (事務局 安田 和夫)

平成27年2月1日、グランヴェール岐山にて教育学科同窓会を盛大に行いました。大学からは池谷尚剛学部長のご臨席を賜り、今後の岐阜大学の将来像をおうかがいするとともに、昨年度ご退官された宮本正一先生(中部学院大学教授)をお迎えし、心理士の国家資格化に向けた動きと課題に関するミニ講演会を行いました。また、教育学部OBを中心に構成された「アンサンブルさくら」による音楽演奏も大好評でした。次回は、平成28年度です。奮ってご参加いただけることを期待しております。



平成 27 年度 各学科同窓会事務局

講座名	学科	所在地		担当者	電話
国語教育	国語	〒509-7201	恵那市大井町 1073-1	恵那市立恵那東中学校	小島光太郎 0573-25-5261
社会科教育	史学	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属小学校	高木 良太 058-271-3545
	地理	〒503-0303	海津市平田町野寺 1023	海津市立海西小学校	坂口 亨 0584-67-3101
	法経	〒501-6241	羽島市竹鼻町 226-2	羽島市教育委員会 スポーツ推進室	丸山 靖生 058-393-4622
	哲学	〒506-8688	高山市上岡本町 7-468	飛騨教育事務所 教育支援課	田中 明 0577-33-1111
数学教育	数学	〒502-0056	岐阜市長良真生町 3 丁目 9 番地	岐阜市立長良東小学校	大石 章生 058-233-7203
理科教育	物理	〒501-5123	郡上市白鳥町中津屋 360-3	郡上市立大中小学校	奥田 好紀 0575-82-2039
	化学	〒501-0413	本巣市見延 16	本巣市立一色小学校	白木 和雄 058-324-0603
	生物	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属中学校	山村 雄太 058-271-0320
	地学	〒502-0817	岐阜市長良福光 2070 番地	岐阜市立長良中学校	武藤 正典 058-231-7207
音楽教育	音楽	〒501-4305	郡上市明宝小川 632	郡上市立小川小学校	羽土 聡 0575-87-2871
美術教育	美術	〒502-0858	岐阜市下土居 2 丁目 27-1	岐阜市立青山中学校	小野由加里 058-294-1555
保健体育	体育	〒500-8720	岐阜市神田町 1 丁目 11	岐阜市教育委員会 学校指導課	川治 秀輝 058-265-4141
技術教育	技職	〒502-0817	岐阜市長良福光 2070 番地	岐阜市立長良中学校	中西 健 058-231-7207
家政教育	家政				吉田 麻子 0568-65-9860
英語教育	英語	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属中学校	水崎 綾香 058-271-0320
学校教育	教育				安田 和夫 0584-78-1883

● 編集後記 ●

近年、各教科等の全国大会が相次いで岐阜で開催されています。飛山濃水と呼ばれる自然に恵まれた土地であることや、古くから東西の文化交流の拠点であったことにもよります。インターネットが普及し交通が発達した現代においても、岐阜は全国の中心的な役割をはたしています。たとえば、平成 27 年 11 月 12・13 日には、幼・保から大学にいたる造形・図工・美術教育の全国大会が開催され、2 千名に近い先生方をお迎えしました。「ひとりひとりに『つくる喜び』を ー豊かな心と表現力を育てる造形美術教育ー」をテーマに、15 会場で 54 の授業や保育を公開しました。子どもたちがいきいきと表現や鑑賞の活動をする姿が各会場で見受けられました。全体会では国際化や情報化の時代を反映して国内外の今日的な動向が話題になるとともに、岐阜県ならではの特色のある教育実践が示されました。

山々に囲まれ木工の盛んな飛騨では、伝統的に版画や木彫の実践が行われてきました。陶芸の地場産業がある東濃においては、粘土や焼き物に関する教材が特徴的です。また、美濃和紙の産地として知られる美濃市では紙の造形作品、刃物の街である関市でも切る・彫る道具を使った木の造形の実践が位置付けられています。このような地域の特色をいかした教育実践は、机上の学習だけで理解できるものではなく、その土地の自然や生活になじみ、子どもたちと共に過ごした経験や実践の蓄積から体験的に知るものであると考えます。地域の特色をいかすことは、いずれの教科、総合的な学習、特別活動等にも共通した課題です。子どもたちと先生方が育んできたすばらしい教育実践の蓄積を、若い世代の学生や教師たちに実感をもって伝える場や機会を、同窓会の皆様のご協力を得て提供していきたいと願っています。

(広報部会 辻 泰秀)

お便り・情報を募集

皆様の近況報告、紙面への掲載希望・クラス会・OB会の報告など何でも結構です。お気軽に同窓会事務局までお寄せください。

岐阜大学同窓会報第 21 号

発行日 / 平成 27 年 12 月発行

発行者 / 田口 和男

発行所 / 岐阜大学教育学部同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸 1 番 1

TEL. 058-293-2344 (平日 10 時～15 時)

FAX. 058-293-2343 (24 時間)

岐阜大学教育学部同窓会ホームページ : <http://www.ed.gifu-u.ac.jp/~dousokai/> E-mail : kyo_doso@gifu-u.ac.jp